

令和5年度 公立八鹿病院看護専門学校 学校評価結果の報告(公表)

本校は、「保健師助産師看護師法第11条」の看護師養成所の指定を受け、指定規則に則り、運営しています。「看護教育自己評価指針」に基づき、学校評価を平成26年から実施し、教育の質の向上をめざし、学校運営の改善に努めています。

令和6年3月に学校関係者評価委員会を開催いたしました。令和5年度の学校自己評価結果、重点目標の取り組み状況と結果を報告し、改善への示唆をいただきました。

令和5年度の重点目標は以下の通りです。

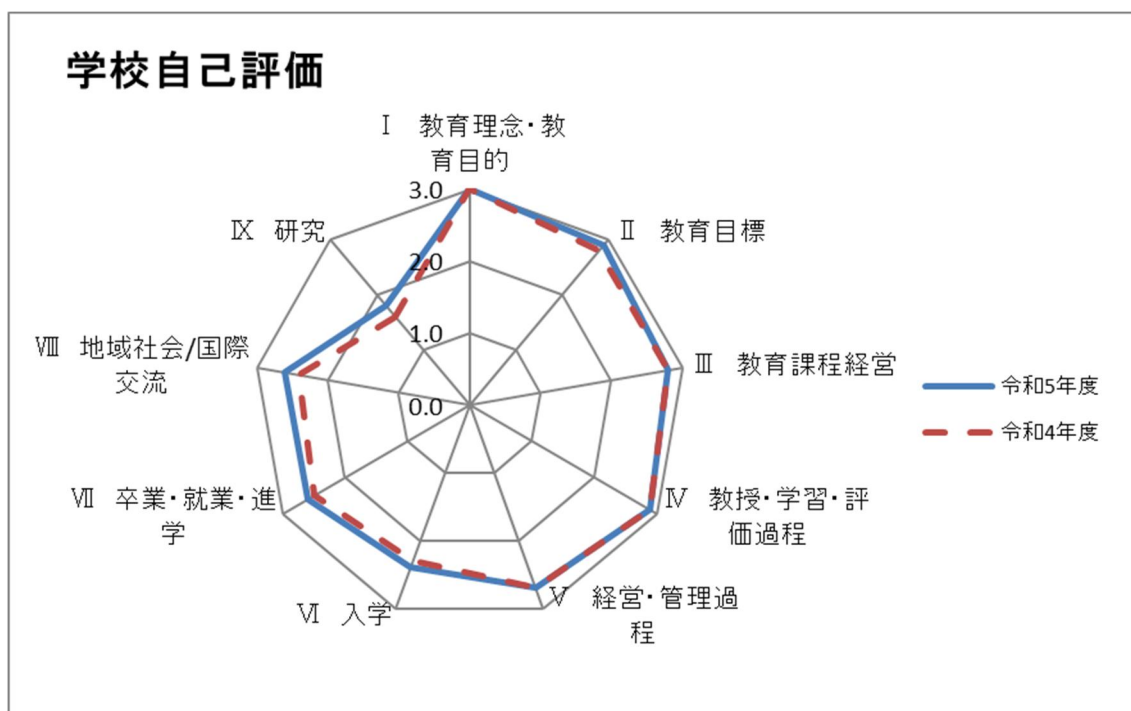
重点目標1. 教育内容の充実をはかる

- 1) カリキュラムルーブリックを活用する
- 2) 教員の教育・研究活動の充実させる
- 3) 学生支援と教授活動の両立をはかる

重点目標2. 学校について地域社会に説明する

- 1) 定員を満たすよう入学生の確保を行う

以下は、令和5年度の学校自己評価の結果です。令和5年度はカリキュラムの改正後の2年目の運営である為、全ての項目について評価を行いました。



評価項目	評価概要	令和 3年	令和 4年	令和 5年
I 教育理念・教育目的 (11項目)	社会の変化に対応し人々のニーズを満たし、質の高い看護師の養成に努め、看護師養成所の責任を果たしているかを評価しました。	2.9	3.0	3.0
II 教育目標 (7項目)	教育理念・教育目的と一貫性があり、卒業時の到達目標を明確にして教育内容を精選しているのかを評価しました。	2.8	2.8	2.9
III 教育課程経営 (31項目)	学生に効果的でかつ質の高い教育を実践するために、教育課程が適切に運営されているのかを評価しました。	2.8	2.8	2.8
IV 教授・学習・評価過程 (17項目)	授業内容が教育目標と一貫性があるか、また教育内容が妥当なものか学生による授業評価や教員の自己評価が授業の改善につながっているかを評価しました。	2.8	2.9	2.9
V 経営・管理過程 (36項目)	予算計画、事業計画が適切に執行され管理されているか。また、学生への支援が適切に行われているのかを評価しました。	2.7	2.7	2.7
VI 入学 (2項目)	教育理念・教育目的に基づいた学生の確保のため、入学選抜等が適切に運用されているのかを評価しました。	2.4	2.3	2.4
VII 卒業・就業・進学 (8項目)	卒業時の到達状況を把握と卒業後の活動状況の評価を教育に反映させることができているかを評価しました。	2.5	2.5	2.6
VIII 地域社会、国際交流 (10項目)	地域社会への貢献度及び国際交流について評価しました。	2.4	2.4	2.6
IX 研究 (3項目)	教員の研究的姿勢、活動の状況について評価しました。	1.6	1.6	1.8

学校関係者評価委員会

【開催日】 令和6年3月22日(金)13:00～

【出席者】

評価委員

公益社団法人兵庫県看護協会 但馬支部理事 尾崎淳子氏
 鳥取大学 名誉教授 福安勝則氏
 公立八鹿病院 看護部長 足立記代子氏
 卒業生代表 看護師 足立日南氏 看護師 村上結衣氏

学校側出席者

学校長：濟 昭道 事務長：鯉淵朝生 教育課長：坂本真由美
 主任：杉垣ひとみ 谷口留充 田中佳代子 和田美穂 大海貴子
 専任教員：安達文佳

【評価委員からの意見】

1. 入学・卒業・就業・進学について

- 看護師不足は但馬地域だけでなく、京阪神でも厳しい現状がある。特に但馬地域は人口減、高齢化が著しく、一層厳しい状況にある。そのため看護職の啓蒙活動は若年層の中でも中学生に働きかけること

を重要視している。学生の確保も現行以上に、小・中学生を対象に働きかけていかれるとよい。

- 地域の方に母体病院や学校の活動を広く知ってもらうことが必要であり、特に強みを発信する必要がある。
- 学生確保の困難な点は大学も同様である。自分で進路を決定して入学してきたのであれば、退学や休学となっているケースがある。自己決定につながるような学生を“感動させる”“やってみたい”と思わせる内発的動機付けとなる活動を行うとよい。
- 看護補助者確保に社会人を選択肢としているが、確保困難である。しかし、相手方の状況を良く知って関わると活路がひらけることもある。対象に応じて組織的にかかわる必要がある。

2. 学生支援について

- 学力の低下は大学でも危惧している状況である。(看護師になりたい)動機を持って入ってきた学生に有能感を持たせることも必要である。自己決定させることで責任感が生まれ、質のよい学校生活を継続させることにつながるため、自己決定させる機会を様々な場面に取り入れると良いのではないか。
- 学習ノートの共有の場があることは、学力低下のある学生への支援であり、効果的なのではないか。

3. カリキュラム評価について

- ICT教育が新カリキュラムでは求められ、情報管理の能力が日常的に求められている。高校でも学び、情報科学の授業で積み上げてはいる。しかし、実習でヒヤリハットがあった現状から、臨地で活かせる学びが必要である。

【学校関係者評価委員会を終えての取り組み】

- 学校の取り組みを地域社会に発信するだけでなく、地域の方の元へ出向く地域貢献活動を充実させること、学校の活動に招くことなどに取り組みます。また、働きかけの対象もより幅広く取り組みます。
- カリキュラム運営では以下の点に努めます。
 - ① 学生が責任を持ち主体的に取り組めるよう、自己決定の場づくりなど、内発的動機付けの仕掛けづくりを意図的、計画的に行います。
 - ② 安全なカリキュラムの運用に努めます。(領域横断科目、旧カリキュラムの実習など)
 - ③ カリキュラムルーブリックを活用し、授業評価、科目評価、看護学の評価を行い、次につながる具体策を組織内で共通理解し、実践します。